

据付点検要領書

天埋ダクト型除湿機（再熱）

除湿機を据え付ける前にこの据付点検要領書をよくお読みのうえ、除湿機を正しく据え付けてください。

型式 08CV-Y3

お願い：この書類は次の工事をされる方へ必ず引き継いでお客様に保管していただいでください。

（搬入据付工事）→（冷媒配管工事）→（電気配線工事）→（冷媒封入）→（試運転）→（お客様）

※リモコン（別売）についてはリモコン（別売）付属の据付点検要領書を参照してください。

※オプションについては各オプション付属の取付要領書を参照してください。

重要事項

※本据付点検要領書は、この除湿機についての一般的な説明と情報を提供しています。

※除湿機を据え付ける前にこの据付点検要領書をよくお読みのうえ、除湿機を正しく据え付けてください。

※据付工事者およびシステム管理者は、法規に従い冷媒漏れに対する安全性を確保してください。

※ご不明な点がございましたら、お買い上げの店またはメーカー指定のお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

※この除湿機は、以下の温度での使用を目的で設計されています。この範囲内で除湿機を運転してください。

条件	室内ユニット吸込空気温度 (室内温度ではありません)
区分	
再熱運転	1℃以上45℃以下(乾球)

- (注) 1. 左記範囲外の場合は送風運転に切り換わる場合があります。
2. 吸込空気温度が約 20℃以下になると、除湿機に着霜することがあります。
(着霜すると自動的に除霜運転をします。) この場合、除霜運転と除湿運転を交互に行うため、除湿運転時間が減少し、除湿量が低下しますのでご使用に際し注意してください。
3. 湿度センサー本体の誤差は、相対湿度 45%時で± 5%、ON/OFF のデファレンシャルは 5～8%あります。さらに、除湿機本体への組み込み具合などを含めると精密な湿度制御は難しいので、湿度設定値は一応の目安程度とお考えください。

※本据付点検要領書は、空調設備の部品の一部とみなされます。必ず保管をしてください。

はじめに

※この製品は国内一般除湿機です。

※木材・薬品などの特殊雰囲気(腐食性や可燃性のあるもの)や、熱交換器の目詰りを発生させる塵埃が多量にある雰囲気では使用できません。

※食品・動植物・美術品の除湿、乾燥には対象物に適したそれぞれの除湿手順・乾燥手順および条件を確認したうえでご使用ください。

※次のような場所への設置はしないでください。多くの場合、除湿機が故障する原因になります。

- 油(機械油も含む)の飛沫や蒸気および粉末などの多い場所 ○海岸地帯などの塩分の多い場所
- 温泉地などの硫化ガスの多い場所 ○酸性またはアルカリ性の雰囲気のある場所
- 可燃性ガスの発生・流入などのおそれがある場所

※プラスチック製品成形機などで使用される離型用シリコンガスなどが浮遊する場所への設置はしないでください。シリコンガスなどが熱交換器フィン表面に付着すると、フィン表面が撥水状態になりドレン水がドレンパン外に飛散し水漏れの原因になったり、飛散した水分が電気品箱内に浸入し電気部品が破損する原因になります。

※電磁波を発生する医療機器などを使用するときは、除湿機の誤動作に注意してください。電磁波の発信面を、除湿機の電気品箱に直接向かない位置に据え付けてください。

- 電磁波の空中伝播の影響を避けるため、電磁波を発信する機器やラジオなどは除湿機より少なくとも3m以上離してください。

製品到着時の確認

※本製品を受け取り後、輸送中の損傷がユニットにないことを点検してください。もし、何らかの損傷があった場合は、直ちに運送会社に連絡してください。

※製品型式が、購入注文どおりであることを確認してください。

もくじ

重要事項	1	5. ドレン配管工事	6
製品到着時の確認	1	6. 電気配線工事	7
はじめに	1	6.1 配線容量	7
1. 安全のために必ずお守りください	1	6.2 配線接続位置	8
1.1 据え付けについて	2	6.3 配線接続口	8
1.2 電気工事について	2	6.4 ペアリモコンとの接続について	9
2. 据え付けの前に	3	6.5 複数台接続	9
2.1 搬入について	3	7. 試運転	10
2.2 付属品・現地調達品の確認	3	7.1 試運転の前に	10
3. 据付場所の選定	3	7.2 ディップスイッチの設定について	10
4. 据付工事	4	7.3 多機能リモコンの設定について(除湿機)	10
4.1 工事要領	4	7.4 試運転	12
4.2 ダクト要領	5	7.5 引き渡し	13

1. 安全のために 必ずお守りください

※据付工事の前にこの「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ、据え付けてください。

※ここに示した注意事項は「**△警告**」「**△注意**」に区分していますが、誤った据え付けをした時に、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「**△警告**」の欄にまとめて掲載しています。また、「**△注意**」の欄に掲載した事項も、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を掲載していますので、必ずお守りください。

※据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様にご使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この据付点検要領書は取扱説明書とともにお客様で保管いただくように依頼してください。

なお、製品がお客様のご要求により特別な仕様となっている場合には、標準製品との違いを取扱説明書などを使用して十分説明してください。

＜記号の意味＞



留意事項



取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定できる場合を示します。

取り扱いを誤ると、使用者が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定できる場合を示します。

警告・注意以外の注記事項を示します。

強制事項を示します。特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示です。

禁止事項を示します。

強制事項を示します。必ずアース線を接続するように指示する表示です。

1.1 据え付けについて

△警告

据付工事はこの据付点検要領書に従って確実に行ってください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をして据え付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・除湿機落下によるケガの原因になります。	!
据え付けは除湿機の質量に十分耐える場所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合は、除湿機の落下によるケガの原因になります。	!
可燃性ガスの発生や流入などの恐れがある場所には据え付けしないでください。発火や火災の原因になります。	!
除湿機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。落下によるケガの原因になります。	!
小部屋へ据え付ける場合は、万一、冷媒が漏れても限界濃度を超えないように対策してください。限界濃度を超えない対策については、お買い上げの店と相談してください。万一、冷媒が室内に漏れた場合、その濃度が許容値を超えるような小部屋では窒息などの原因になりますので許容値を超えない対策が必要です。	!
冷媒を取り扱う場合には、必ず革手袋を着用してください。万一、冷媒が直接手などに掛かると凍傷を負う原因になります。	!
本機は不燃性の冷媒R410A専用機です。据え付け・修理・移設の際は、冷媒R410A以外の物質は混入させないでください。他の冷媒・空気・酸素・プロパンやアルコールなどの可燃性物質が混入しますと、爆発・火災・ケガの原因になります。	!
修理の際は、圧縮機を停止してから冷媒配管を取り外してください。冷媒配管が取り付けられておらず、開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり爆発・火災・ケガなどの原因になります。	!
ドレン配管は、腐食性ガスなどの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有毒ガスが流入し、中毒などの原因になります。	!
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス(アンモニア・硫黄化合物・酸など)の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液などを頻繁に使うところでは使用しないでください。腐食による冷媒漏れ・感電・著しい性能の低下・故障・火災の原因になります。	!
圧力スイッチなどの保護装置を改造(短絡など)して運転をしないでください。改造して運転を行った場合、発煙・火災・破裂の原因になります。	!
気密試験および配管ろう付け時のガスブローには、必ず窒素ガスを使用してください。誤って酸素ガス・アセチレンガス・フルオロカーボンなどのガスを使用すると、爆発および中毒の原因になります。	!
配管ろう付け時のガスブローには必ず減圧弁を使用してガス圧を0.02MPa程度に調整してください。ガス圧が高すぎると、爆発の原因になります。	!
ろう付け作業前には必ず周囲の可燃物を排除してから、ろう付け作業を実施してください。火災の原因になります。	!
密閉した場所での作業は、酸欠の恐れがありますので、十分な換気をしながら実施してください。また、洗浄液は、火気に触れるなど高温状態となりますと、有毒ガスが発生する原因になります。	!

△注意

除湿機本体の据え付けは逆勾配(ドレン配管接続側と反対側への勾配)をつけないでください。水漏れの原因になることがあります。	!
ドレン配管は確実に排水するよう、配管してください。不確実な場合は屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。	!
人力による製品の運搬は、一人で行わないでください。重量物を一人で扱うとケガの原因になることがあります。製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。	!
熱交換器フィン表面に素手で触れないでください。切傷する原因になることがあります。	!
本除湿機は塵埃の少ない屋内専用です。防塵・防水構造ではありませんので屋内に設置してください。屋内設置が守られない場合は重大な事故の原因になることがあります。	!
複数台の除湿機を共通ダクトで施工することはできるかぎり避けてください。やむを得ず複数台の除湿機を共通ダクトで施工する場合は、送風機を連動させて運転するようにしてください。1台でも送風機が停止していますと除湿効果が悪くなり、最悪の場合、圧縮機が故障する原因になることがあります。	!
カバー・パネルの開閉、エアフィルターの取り付けおよび取り外し時は、手でしっかり保持してください。落下や傷害の原因になることがあります。	!
付属のドレンホースを曲げたり、ねじったりして使用しないでください。水漏れの原因になることがあります。	!
ドレン配管接続口には過大な力を加えないでください。破損する原因になることがあります。	!
ドレン配管は逆勾配(上り勾配)の部分や立ち上がり部を作らないでください。機械が停止したとき水が逆流し、水漏れの原因になることがあります。	!
ドレン配管は他の汚水・排水系統と直結しないで別配管にしてください。熱交換器の腐食や異臭の原因になることがあります。	!

1.2 電気工事について

△警告

電気工事をするには資格が必要です。資格のあるお店に依頼してください。ご自分で電気工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。	!
電気工事は「電気設備に関する技術基準」内線規程(JEAC 8001)(最新のもの)およびこの据付点検要領書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をし、電源回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。	!
配線は所定のケーブルを使用してください。ケーブルの誤選定は感電や火災の原因になります。	!
電源配線は、より線を使用せず、単線を使用し確実に接続して固定してください。より線を使用したり、接続や固定が不安定な場合、故障や発熱・発火の原因になります。	!
電源配線は、途中で接続しないでください。接続部が過熱し、火災・感電の原因になります。	!
単線の芯線は、規定長をむき出し、端子台に芯線が隠れるまで確実に押し込んでください。挿入が不十分であったり、むき出し長が異なると接触不足により故障や発熱・火災の原因になります。	!
端子台への配線接続後は、必ずケーブルクランプおよびコードトメで結束してください。また、配線は配線通し口内に確実に収納してください。実行しないと配線噛みにより発火事故の原因になります。	!
配線の端子は規定トルクにて確実に締め付けてください。端子の締め付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱・感電・火災の原因になります。	!
端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。	!
漏電遮断器を必ず設置してください。法規(電気設備に関する技術基準を定める省令)により設置が定められています。設置しないと地絡により火災や感電の原因になります。	!
現地配線施工時は、ネズミなどの小動物に現地配線がかじられることのないよう配慮し施工してください。配線がかじられると火災の原因になります。	!
正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。大きなヒューズや針金などを使用すると発熱の原因になります。	!
アースの接続はD種接地工事(電源電圧300V以下)により電気工事士の方が行ってください。除湿機のアースを取り付けしないと、感電など思わぬ事故につながります。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。	!
電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときは、電源を完全に遮断してから行ってください。感電の原因になります。また、遠隔操作や停電自動復帰運転により[運転]ボタンを押さなくても運転することがあるため、電源を遮断せずにカバーを開けていた場合は、ファンの回転などによりケガの原因になります。	!
サービスカバーを取り付ける際は、電気配線がかみ込まないように注意してください。感電や火災の原因になります。	!
プリント基板のスイッチを操作する場合は、他の電気部品に絶対触れないでください。感電の原因になります。	!
サービスコネクタを取り扱う際には、必ず電源を遮断してから作業を行ってください。感電の原因になります。	!
残留電圧で感電する恐れがあります。	!
※電気部品の点検を始める前に、必ずすべての電源を遮断してください。	!
※電源遮断後は必ず放電していることを確認してください。	!

△注意

除湿機の電源を、大量の電力を使用する機器（リフト・コンテナクレーン・電鉄用整流器・インバーター電源装置・アーク炉・電気炉・大型の誘導電動機・大型の開閉器など）と同一の電源トランスから配電する場合や大量の電力を使用する機器の電源線と除湿機の電源線同士が近接している場合は、機器の消費電力の急激な変動や、開閉器の作動により、極稀に除湿機の電源線に誘導サージ電圧が発生し、除湿機が正常に運転されない場合が発生する恐れがあります。事前に現地での電源状況を把握され、当該の恐れのある場合は、除湿機に接続する電源線へのサージの重畳を防止（電源線の接続元の変更・配線引回し方法の見直し・サージ抑制機器の取り付けなど）してください。

□はチェック用です。点検を完了したものからチェックマーク☑を入れてください。各工事完了後、工事責任者サイン欄にサインをしてください。

2. 据え付けの前に

工事責任者サイン

△警告

据付工事はこの据付点検要領書に従って確実に行ってください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をして据え付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・除湿機落下によるケガの原因になります。

除湿機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。落下によるケガの原因になります。

2.1 搬入について

- 1) できるだけ梱包のまま据付位置まで搬入してください。
- 2) 除湿機を平らに置いた際に上に物を載せないでください。
- 3) 開梱・搬入・据え付け時は製品を逆さにしたり傾けたりしないでください。内部の部品の破損・変形・故障の原因になります。

留意事項

※製品のカバー表面には傷防止のために保護フィルムが貼り付けてありますので、据え付け時に保護フィルムをはがしてください。

2.2 付属品・現地調達品の確認

- 1) 下記部品が除湿機本体および梱包内部に付属されていますので、据え付けの前にご確認ください。

付属部品一覧表

名称	個数
リモコン(PC-RKF)	1個
防振ゴム	5個
丸ワッシャー	10個
水準器	1個

- 2) 除湿機本体の中には絶対に異物を入れないでください。据え付けの前に必ず異物の混入がないことを確認してください。

3. 据付場所の選定

工事責任者サイン

△警告

据え付けは除湿機の質量に十分耐える場所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合は、除湿機の落下によるケガの原因になります。

可燃性ガスの発生や流入などの恐れがある場所には据え付けしないでください。発火や火災の原因になります。

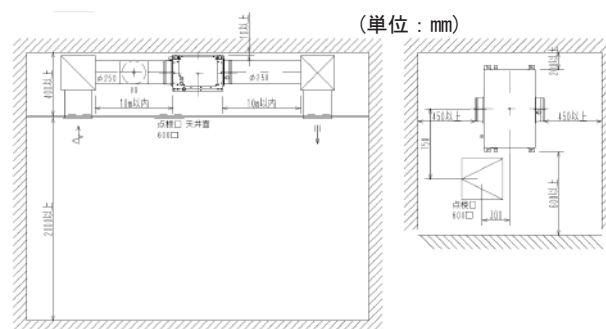
留意事項

- ※病院などの電磁波を発生する医療機器を使用される場所に据え付ける場合には、下記の点にご注意ください。
 - (1) 電磁波放射器の発信面が直接除湿機本体の電気品箱に対向しない位置に据え付けてください。
 - (2) ノイズの空中伝播の影響を避けるため、電磁波を発信する機器との距離は少なくとも3m以上離してください。
 - (3) 除湿機の電源にノイズが発生している場合には、ノイズフィルターを取り付けるなどの処置が必要です。
- ※油の飛沫や蒸気のたちこめる場所（例：調理場や機械工場など）への据え付けは避けてください。油が熱交換器に付着し、熱交換不良による霧の発生・合成樹脂部品の変形破損・熱交換器の腐食・断熱材のはく離などをひきおこすことがあります。
- ※有機溶剤（シンナーやベンジン）の雰囲気のたちこめる場所（例：塗装場やクリーニング工場など）への据え付けは避けてください。合成樹脂部品が溶解破損します。
- ※酸性またはアルカリ性雰囲気など一般の雰囲気と異なる場合には熱交換器などの腐食を起こしますので、耐食処理製品（受注対応品）を使用する必要があります。
- ※飲食店や厨房などで使用される揚げ物の油脂類が熱交換器のフィンに多量に付着しますと、熱交換が悪くなり、霧を発生させることがあります。現状では、熱交換器のフィンに油脂類が付着しないよう、油脂類の吸着性のよいフィルドフィルターを使用することが最も効果的です。ので、あらかじめ、このような場所に据え付けられるときにはフィルドフィルターを取り付けてください。
- ※油や粉末などを直接吸い込む恐れがある場所への据え付けは避けてください。送風機などに油・粉末・粉塵などが付着すると、振動が大きくなり、機器を損傷する可能性があります。
- ※可燃性ガスの発生・流入・滞留のおそれのある場所や、カーボン繊維の浮遊する場所への据え付けは避けてください。
- ※温度を検知して作動する警報器や制御装置などに除湿機の吹出空気が直接当たるような位置に設置することは避けてください。警報器や制御装置などの誤動作の原因になります。

- 1) 据付面は丈夫であることを確認してください。除湿機の質量に耐える強度をもっていないと、騒音や振動を発生することがあります。
- 2) 除湿機の周囲には、機械の点検・保守が容易にできるように、下図に示すサービススペースを確保してください。ドレン配管・その他は機械の点検・保守の妨げにならないよう施工してください。また、据付所要スペースには可燃物を設置しないでください。天埋設置の場合は、点検口を必ず設けてください。
- 3) ドレン配管の水抜き勾配が取れる場所であることを確認してください。
- 4) 除湿機下部周辺に水濡れ厳禁の設備・家財などがある場合は、排水不良による万一の漏水に備え、二次ドレンパンの設置(現地調達)を検討してください。

据付所要スペース

※除湿機の周囲には、空気吸込口や機械の点検・保守が容易にできるように、下図に示す据付所要スペースを確保してください。



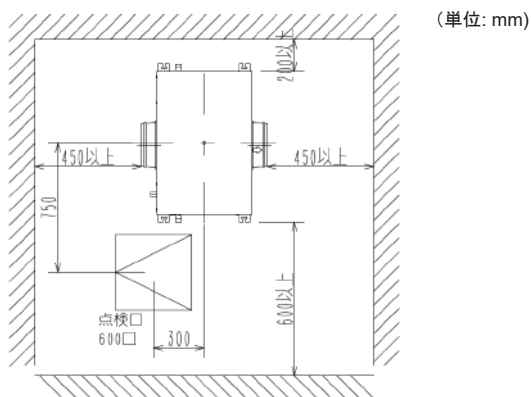
オプションを使用する際は、各オプション寸法図に記載の据付所要スペースを参照してください。

4. 据付工事

点検口(天埋設置の場合)

※天埋設置の場合、3ページの据付所要スペースに加えて、下図に示す点検口を設けてください。点検口以外に除湿機下面に容易に外せる天井または開口可能部を設けてください。

※メンテナンス性確保のため、据付所要スペース（特に点検口から除湿機本体の間）に障害になるものを設置しないでください。



※圧縮機や電子制御膨張弁などの冷凍サイクル部品を交換する場合には、ろう付け作業が必要です。天井板を容易に外せない場所では、除湿機を取り外すことができる開口可能部を除湿機の下面に設けてください。

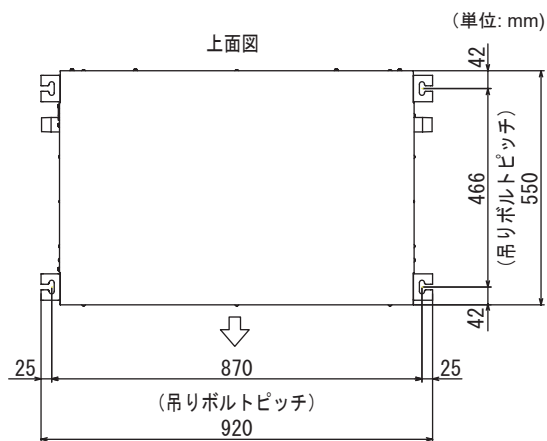
4. 据付工事

工事責任者サイン

4.1 工事要領

《吊りボルトの位置》

- 1) 配管・配線のサービス方向に注意して据付位置・方向を決定してください。
- 2) 除湿機の据付位置決定後、天井への穴開け、吊りボルトの設置を行ってください。取付穴位置の寸法は下図のとおりです。



- 3) 天井の処理：建物の構造により異なりますので、詳しくは建築業者・内装業者とご相談ください。

※天井の水平度を正しく保ち、天井板の振動を防ぐためには、必ず天井下地（骨組：野縁と野縁受け）の補強が必要です。また、天井吊り部の骨組み強度が弱い場合には、防振ゴムなどをご使用ください。

※点検口相当部分・天井下地を切断・撤去してください。（天埋設置時）

※天井下地切断端の補強、および天井板の端固定用の天井下地を追加してください。（天埋設置時）

※同一の天井下地材に蛍光灯を吊ると、蛍光灯が振動することがありますので、必ず天井下地材を分けて使用してください。

《吊りボルトの位置》

- 1) 吊り下げ箇所は強固な構造にしてください。また、ダクトなどを利用すると吊り下げが容易です。
- 2) 吊りボルトは耐震など必要に応じ、振れ止め用耐震支持部材にて補強を行ってください。吊りボルトと振れ止め用耐震支持部材はM10のものを使用してください。（現地調達）

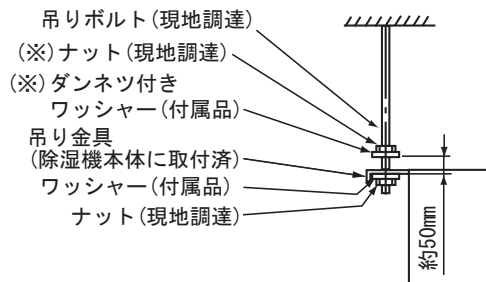
木造・簡易鉄筋の場合	鉄筋の場合
<ul style="list-style-type: none"> ● 小屋梁(はり・平屋建て)または2階梁(2階建て)を強度メンバーとしてください。 ● 除湿機吊り下げには丈夫な角材を用いてください。梁間が90cm以下の場合＝6cm角以上の角材 梁間が180cm以下の場合＝9cm角以上の角材 	

《工事要領》

□1) ナットの取り付け

※吊りボルトにはあらかじめ下図の位置にナットを付けておきます。なお、天吊設置の場合は、(※)部は不要です。

※ワッシャーは吊りボルトが吊り金具から外れないようにするためです必ず付属のワッシャーを取り付けてください。ダンネツ付きワッシャーは断熱材が下になるように取り付けてください。吊り込み作業のとき、ワッシャーを吊りボルトに保持することができます。

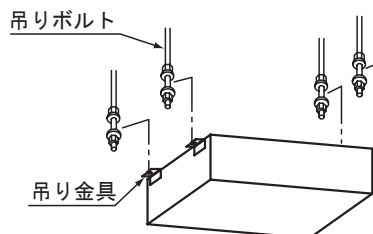


□2) 除湿機本体の吊り込み

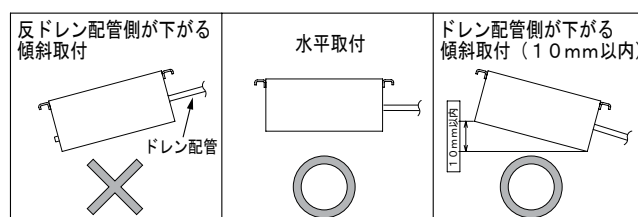
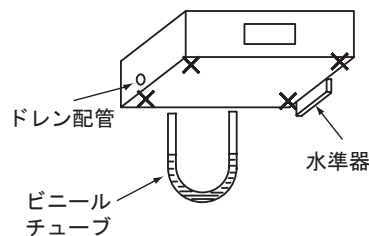
※除湿機本体のキャビネット下部に手をかけて除湿機本体を吊り込んでください。

※除湿機本体の吊り込みは吊り金具の切欠部に吊りボルトを挿入してください。その際、ワッシャーが吊り金具の立ち上がりでストッパーとなっていることを確認してください。

(注) 除湿機本体吊り下げ後に配管・配線接続作業が必要となります。したがって、据付場所選定後、配管引出方向を決定し、特に天井が既設の場合は、除湿機本体を吊り下げる前に配管・配線接続位置まで配管・配線工事を行っておいてください。除湿機本体と天井面を合わせるとき、除湿機本体の水平度を保ってください。水平度がでないとい、フロートスイッチの誤動作や不作動の原因となり、さらにドレンの排水ができなくなるため水落ちの原因となります。



※下図の×印4カ所の水平度を水準器またはビニールチューブに水を入れて確認し、必ず水平に吊り下げてください。ドレン配管と反対面が下がる傾斜で吊り下げると、水落ちする場合があります。

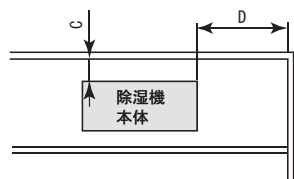
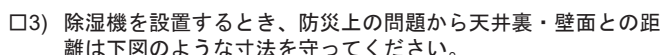


除湿機傾斜について

4.2 ダクト要領

⚠ 注意

エアフィルターは、必ず取り付けてください。エアフィルターを取り付けないで使用すると熱交換器の目詰まりやドレン水の詰まりによる水漏れの原因になることがあります。

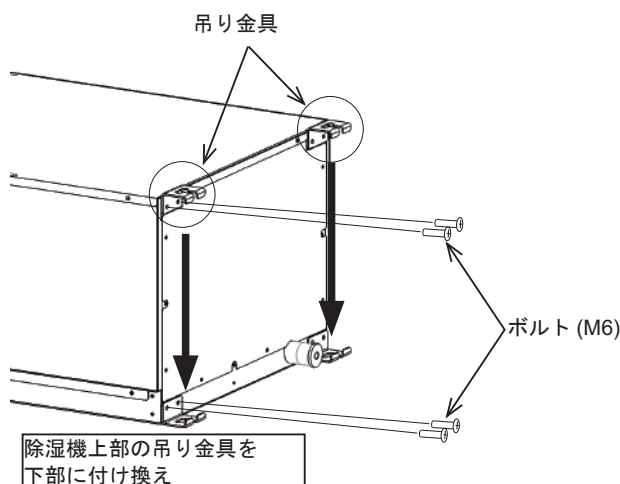


	壁・柱などの材質	
	可燃性	不燃性
C	100cm以上	10cm以上
D	60cm以上	5cm以上

●床置設置の場合

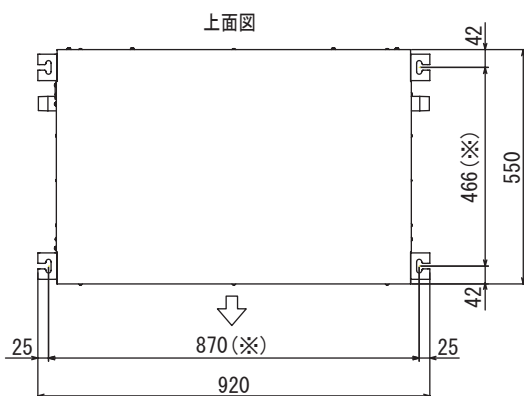
《工事要領》

- 1) 除湿機側面の上部にある吊り金具を固定しているボルト(M6)を外して、吊り金具を取り外します。外したボルトは、同じ箇所
に再取り付けしてください。
- 2) 除湿機側面の下部にあるボルト(M6)を外して、下図のとおり1項
で外した吊り金具を除湿機下部に取り付けてください。



- 3) 除湿機は、平らで水平な床面に据え付けてください。床面が傾いているとドレン水があふれることがあります。
- 4) 除湿機は、丈夫な床面に据え付けてください。床面が弱いと騒音や振動が発生することがあります。
- 5) 除湿機を据え付ける場合は、アンカーボルトまたはボルト(現地調達)により固定してください。
アンカーボルトまたはボルトはM10のものを使用してください。

(单位: mm)



(※) アンカーボルトまたはボルト取付寸法

留意事項

※ドレン配管の勾配が取れない場合は、除湿機を架台（現地調達）上に設置するなどして、必ず勾配を取るようにしてください。

●多機能リモコンの取付

- 1) 多機能リモコンの取り付けは、多機能リモコンに付属の据付点検要領書を参照してください。

□1) ダクトの取り付け

標準はφ250のダクトフランジが取り付けられています。
φ250のスパイラルダクトもしくはフレキシブルダクトをダクトバンドで巻き締め、バンドをタップビスなどで固定してからダクトテープを巻いて接続してください。

- 2) ダクト工事をする際、下記のことに注意してください。

※室内ユニット本体にはエアーフィルターが付属していません。
清掃の容易な空気吸込口に組み込んでください。

※ 運音チャンパは据え付ける室内に適した運転音から判断して取り付けてください。また、MRI室などのシールド施工してある部屋ではダクトの接続は電氣的絶縁を図る必要があります。

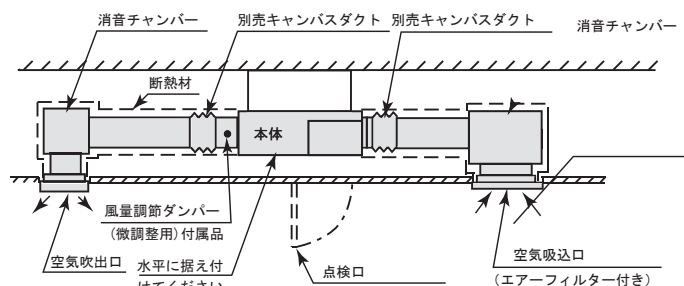
※ユニット本体の振動が天井およびスラブに伝わらないように、キャンバスダクトもしくはフレキシブルダクトを介してダクト接続してください。

※ユニット本体の振動がスラブに伝わらないように、吊りボルトへは防振ハンガーまたは防振ゴムを取り付けてください。

※チャンバーボックスを空調と併用する場合は必ず吹出及び吸い込みのチャンバーボックスにてダクト同士を垂直に合流してください。

※付属のボリュウムダンパー（VD）を吹出側に必ず取り付けてください。

※ユニット本体の取付事例は下図を参考に取り付けてください。



※「ユニット本体機外静圧＝ダクト圧力損失＋吸込・吹出圧力損失など」となるように設備設計をしてください。室内ユ

ニット本体の機外静圧に対し、ダクト圧力損失、吸入・吹出

ユニット本体の機外静圧に対し、ダクト圧力損失、吸込・吹出圧力損失が過少ですと、風速が大きくなり運転音大・水とび・モーター保護回路の作動などの不具合が発生することがあります。また、ダクト圧力損失、吸込・吹出圧力損失に対し室内ユニット本体の機外静圧が過少ですと、風速が切り換わらなくなるなどの不具合が発生することがあります。据え付けのユニットの風量が調整になるよう付属の風量調節ダンパーの取付けし風量の適正にください。

標準制圧 = 120 Pa

適正風量 = 12 m³/min (720 m³)

※吸込側チャンバーの一側面のみに丸ダクトを接続するなど、吸込側風速分布に偏流が生じるような施工は避け、均一な風速分布となるように施工してください。

※天井面には電気部品やモーターなどのサービスのため点検口を必ず設けてください。

※ダクトには必ず断熱材を使用してダクトへの結露を防止してください。その際、ダクトと室内ユニット本体の接続部が露出しないように
確実に断熱してください。

- ☐3) オプション（別売）の取り付け

漏水検知システム、ドレンアップポンプなど、オプションの取付方法は、それぞれのオプションに付属の要領書を参照してください。

- 4) フレキシブルダクト施工時のご注意

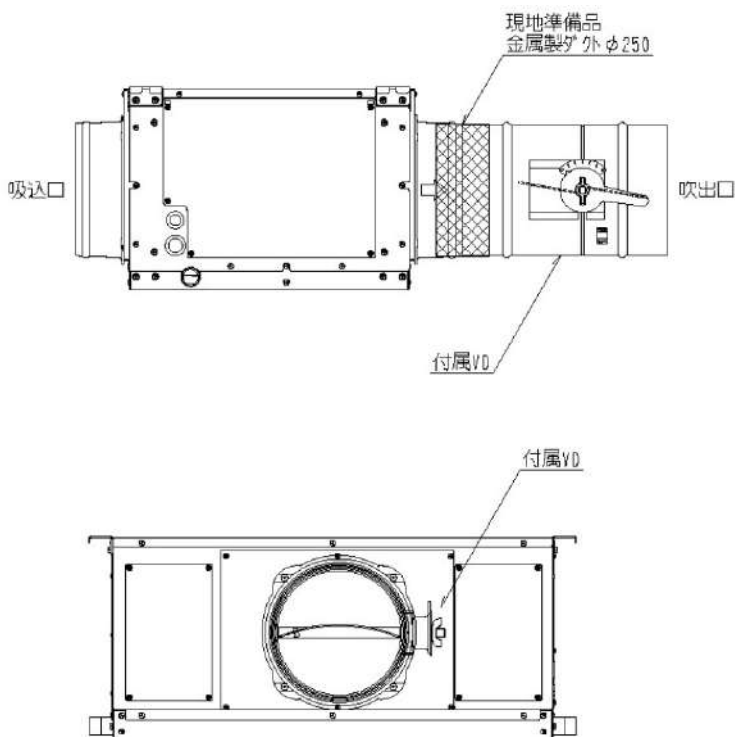
※フレキシブルダクトは必ずすべての空気吹出口に接続し、折れ曲がりなどにより空気の流れを妨げないように施工してください。空気吹出口をふさいだり、フレキシブルダクトに折れ曲がりがあると、故障や異常停止・露付き・露落下の原因になります。

※フレキシブルダクトの接続部はバンドで確実に固定した後、断熱材（不燃材、厚さ 20mm 以上）を貼り付け、断熱処理を実施してください。また、接続部にすき間が生じないようにしてください。すき間があると風漏れや露付き・露落下の原因になります。

5. ドレン配管工事

□5) 付属VDの取り付け

付属ボリュームダンパーは下図を参考に取り付けてください。
取付にはφ250（長さ100mm）の金属ダクトが必要です。



□6) 付属VDの取り付け施工時の注意

- 取付スペースの関係でVDをユニットより離して設置する際は必ず吹出側に設置してください。
- 圧力損失が過少の場合はアラーム19が発生する場合があります。その場合はVDを絞りを既定の風量に設定するカリモコンの風量を弱などに設定ください。

□7) 設定風量

- 標準制圧=120Pa
- 適正風量=12m³/min (720m³)

5. ドレン配管工事

工事責任者サイン

⚠ 警告

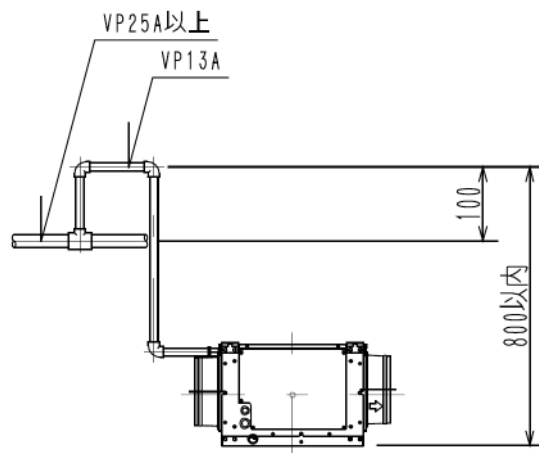
ドレン配管は、腐食性ガスなどの発生する排水溝に直接入れないでください。
室内に有毒ガスが流入し、中毒などの原因となります。

⚠ 注意

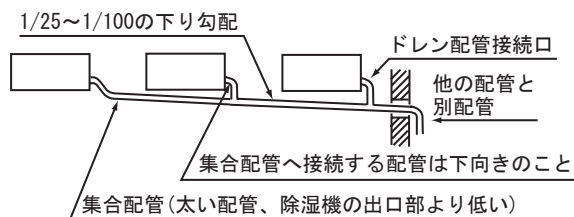
ドレン配管は確実に排水するよう、配管してください。不確実な場合は、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

□1) 付属ドレンホースから先の現地工事ドレン配管

- ① 塩ビ管 VP25A以上を現地で調達し、塩ビ系接着剤を使用し、ドレンホースに塩ビ管を接続してください。
- ② 接着面の洗浄・接着剤塗布・管の挿入・保持・養生などは接着剤メーカーの資料により、確実に行ってください。



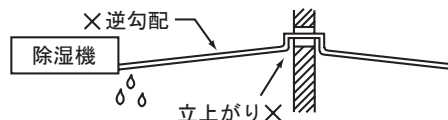
- ③ 複数台のドレン配管を集合配管とする場合、集合配管の位置は必ず本体のドレン出口部より低くなるようにしてください。また、集合配管の太さは集合した本体の台数に見合うだけ太い配管 (VP30(呼び径 30mm、外径 38mm) 以上の太い配管) で施工してください。



⚠ 注意

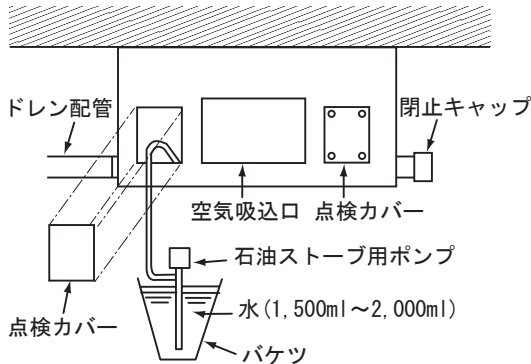
ドレン配管は逆勾配(上り勾配)の部分や立ち上がり部を作らないでください。
機械が停止したとき水が逆流し、水漏れの原因になることがあります。

ドレン配管は他の汚水・排水系統と直結しないで別配管にしてください。熱交換器の腐食や異臭の原因になることがあります。



□2) 排水および水漏れ確認

- ① 空気吸込口側にある点検カバーを取り外します。
点検カバーはドレン配管接続側を取り外してください。
- ② 点検口から注水し、水が排出されているか、ドレン配管からの水もれがないかを確認してください。
- ③ 確認完了後、点検カバーを取り付けてください。



□3) 室内を通るドレン配管には、必ず市販の断熱材を巻いてください。

□4) 金属のドレン配管を使用する場合には、次の事項を厳守してください。

- ※ ドレン配管には必ず保冷をしてください。
- ※ ドレン配管は下り勾配にしてください。
- ※ 付属ドレンホースは使用せず、ドレン配管接続口に直接ドレン配管を接続してください。
- ※ ドレントラップは必ず施工してください。ドレントラップがないと水飛びや除湿機からの漏水などにつながり、室内に臭気を持ち込んだりします。
- ※ 5) 項に従い、水漏れ確認を行ってください。

留意事項

※ モーター・サーミスター・配線コネクタなどの電気品には水をかけないようにご注意ください。

6. 電気配線工事

工事責任者サイン

行ってください。

警告

- 電気工事をするには資格が必要です。資格のあるお店に依頼してください。ご自分で電気工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 電気工事は「電気設備に関する技術基準」(内線規程(JEAC 8001)(最新のもの))およびこの据付点検要領書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をし、電源回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。
- 配線は所定のケーブルを使用してください。ケーブルの誤選定は感電や火災の原因になります。
- 電源配線は、より線を使用せず、単線を使用して確実に接続して固定してください。より線を使用したり、接続や固定が不安定な場合、故障や発熱・発火の原因になります。
- 電源配線は、途中で接続しないでください。接続部が過熱し、火災・感電の原因になります。
- 単線の芯線は、規定長をむき出し、端子台に芯線が隠れるまで確実に押し込んでください。挿入が不十分であったり、むき出し長が異なると接触不足により故障や発熱・火災の原因になります。
- 端子台への配線接続後は、必ずケーブルクランプおよびコードトメで結束してください。また、配線は配線通し口内に確実に収納してください。実行しないと配線噛みにより発火事故の原因になります。
- 配線の端子は規定トルクにて確実に締め付けてください。端子の締め付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱・感電・火災の原因になります。
- 端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。
- 漏電遮断器を必ず設置してください。法規(電気設備に関する技術基準を定める省令)により設置が定められています。設置しないと地絡により火災や感電の原因になります。
- 現地配線施工時は、ネズミなどの小動物に現地配線がかじられることのないよう配慮し施工してください。配線をかじられると火災の原因になります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。大きなヒューズや針金などを使用すると発熱の原因になります。
- アースの接続はD種接地工事(電源電圧300V以下)により電気工事士の方が行ってください。除湿機のアースを取り付けないと、感電など思わぬ事故につながります。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

警告

- 電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときは、電源を完全に遮断してから行ってください。感電の原因になります。また、遠隔操作や停電自動復帰運転により[運転]ボタンを押さなくても運転することがあるため、電源を遮断せずにカバーを開けていた場合は、ファンの回転などによりケガの原因になります。
- サービスカバーを取り付ける際は、電気配線がかみ込まないように注意してください。感電や火災の原因になります。
- プリント基板のスイッチを操作する場合は、他の電気部品に絶対触れないでください。感電の原因になります。
- サービスコネクタを取り扱う際には、必ず電源を遮断してから作業を行ってください。感電の原因になります。
- 残留電圧で感電する恐れがあります。
- ※ 電気部品の点検を始める前に、必ずすべての電源を遮断してください。
- ※ 電源遮断後は必ず放電していることを確認してください。

注意

除湿機の電源を、大量の電力を使用する機器(リフト・コンテナクレーン・電鉄用整流器・インバータ電源装置・アーク炉・電気炉・大型の誘導電動機・大型の開閉器など)と同一の電源トランスから配電する場合や大量の電力を使用する機器の電源線と除湿機の電源線同士が近接している場合は、機器の消費電力の急激な変動や、開閉器の作動により、極稀に除湿機の電源線に誘導サージ電圧が発生し、除湿機が正常に運転されない場合が発生する恐れがあります。事前に現地での電源状況を把握され、当該の恐れのある場合は、除湿機に接続する電源線へのサージの重量を防止(電源線の接続元の変更・配線引回し方法の見直し・サージ抑制機器の取り付けなど)してください。

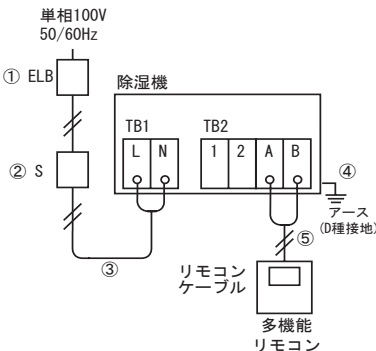
6.1 配線容量

- 1) 除湿機に電源配線工事が必要です。配線は下表の配線を使用してください。
- 2) 配線による電圧降下は標準電圧の2%以下としてください

電源配線容量

項目 (単位)	ELB(漏電遮断器)			S(手元開閉器)	
	定格電流 [A]	定格感度 電流 [mA]	動作時間 [SEC]	スイッチ 容量 [A]	ヒューズ 容量 [A]
型式	①			②	
08CV-Y3	15	30	0.1以下	30	20

項目 (単位)	電源配線 単線の直径 [mm]	アース線 [mm ²]	リモコン 配線 [mm ²]
	③	④	⑤
型式	③	④	⑤
08CV-Y3	1.6	2	0.75以上



- (注)1. 配線容量は除湿機の使用範囲を考慮して、内線規程により決めたものです。配線の電圧降下は幹線や分岐回路合わせて標準電圧の2%以下にしてください。
- 2. ELBは高調波対応品(インバータ対応型)の高速形(動作時間0.1秒以内)を選定してください。
- 3. 動力配線や操作回路などの制御配線は150mm以上離してください。
- 4. 電源トランス容量は定格再熱除湿運転時の1.5倍以上を見込んで選定してください。(本機はインバータを搭載し除湿負荷に応じて運転容量を増減させるため、最大消費電力は定格消費電力を上回ります。)
- 5. 供給電源電圧は下記を満足するような受電設備としてください。
 - ※ 供給電圧：定格電圧±10%以内
 - ※ 始動電圧：定格電圧-15%以内
 - ※ 運転電圧：定格電圧±10%以内
- 6. 多機能リモコンを使用する場合の配線はツイストペア線(型式KPEV・KPEV-S相当品)を使用してください。

6. 電気配線工事

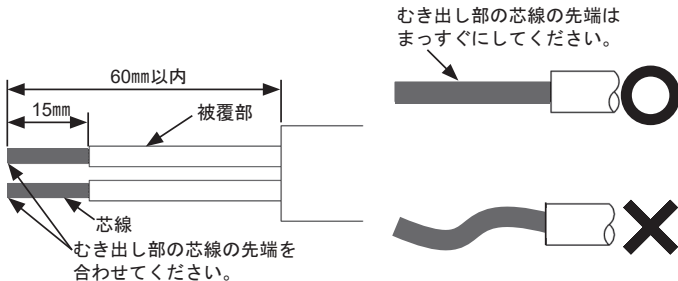
6.2 配線接続位置

⚠警告

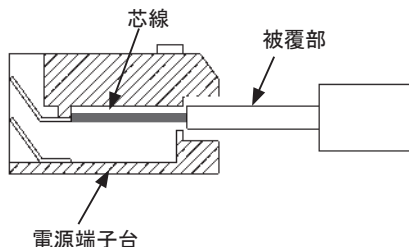
- 配線の端子は規定トルクにて確実に締め付けてください。端子の締め付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱・感電・火災の原因になります。❗
- 端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。❗
- 単線の芯線は、規定長をむき出し、端子台に芯線が隠れるまで確実に押し込んでください。挿入が不十分であったり、むき出し長が異なると接触不足により故障や発熱・火災の原因になります。❗

□1) 電源配線を下図のとおり結線してください。

- ① 単線の芯線は、下図の寸法でむき出し、芯線の先端を合わせ、まっすぐにしてください。



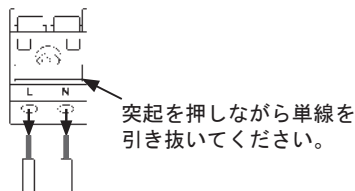
- ② むき出し部の芯線を電源端子台に被覆部が見えなくなるまで、まっすぐ差してください



- ③ おのおのの単線を引っ張って抜けないことを確認してください。

留意事項

※端子台から単線を外す場合は、端子台上面の突起を押しながら電気品箱外側で単線をつかんでゆっくりと引き抜いてください。



□2) 操作回路端子台にリモコンケーブルを結線してください。

操作回路端子台(白色)	ご注意
	端子間を離してください。 (絶縁テープまたはスリーブを付けてください。)

締付トルク

ねじサイズ	締付トルク(N・m)
操作回路端子台(TB2):M3.5	0.8 ~ 1.0

留意事項

※除湿機に使用する多機能リモコンは、[型式：PC-RKF]となります。その他のリモコンは接続できませんのでご注意ください。

(注) 1. 電源電圧は定格電圧を守っていますか。電圧が高すぎても低すぎても機械に悪い影響を及ぼします。

2. 電源の容量は十分ですか。電源容量が不足していると始動時に大幅な電圧低下を生じて始動できない場合があります。
3. 除湿機のアースを取り付けないと感電など思わぬ事故につながりますので、必ずアースを取り付けてください。接地は、電源電圧300V以下の場合で接地抵抗100Ω以下のD種接地でなければなりません。接地工事は電気工事士の方が行ってください。
4. 感電事故を防止するため、電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときは、電源を完全に遮断してから行ってください。
5. 供給電圧は100Vですが、12Vなどの弱電異電圧回路が混在します。耐電圧などは電圧にご注意のうえ、実施してください。

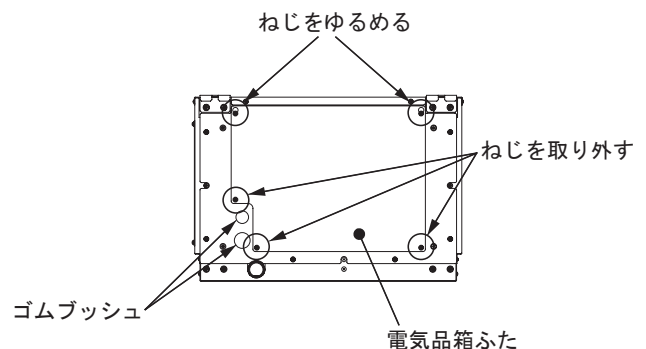
⚠警告

サービスカバーを取り付ける際は、電気配線がかみこまないように注意してください。感電や火災の原因になります。❗

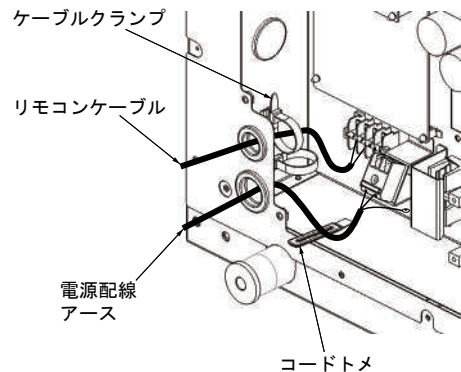
6.3 配線接続口

□1) 除湿機の配線接続口を下図に示します。

- ※電気品箱ふたを取り外します。
電気品箱ふたを固定しているねじ(下側2本、中央1本)を取り外し、ねじ(上側2本)をゆるめて、ふたを下にずらして取り外してください。



- ※ゴムブッシュに切り込みを入れ、下図のとおりリモコンケーブルと電源配線を通してください。



- ※配線を端子台に接続してください。

- ※電源配線は電源端子台下方にあるコードトメで固定し、リモコンケーブルはケーブルクランプで固定してください。その際、配線は、サービス時の作業性を考慮して引っ張りすぎないよう余裕を持たせて、確実に固定してください。

- ※電気品箱ふたを取り付けてください。

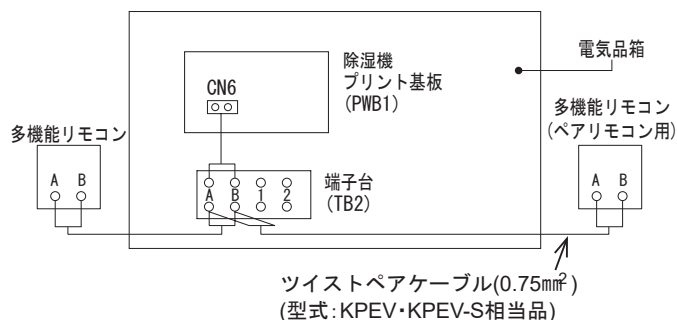
留意事項

※電気品箱ふたの落下に注意して作業を行ってください。
※ねじが噛みこみやすいため、ねじの脱着には電動ドライバーを使用しないでください。

6.4 ペアリモコンとの接続について

ペアリモコン機能を使用する場合は、多機能リモコン（型式:PC-RKF）をもう1台準備し、多機能リモコンに付属の据付点検要領書をよくお読みのうえ、下記のとおり結線してください。

＜結線図＞



- (注)1. リモコンの総配線長は、200m以下としてください。総配線長30m以下の場合は、ツイストペアケーブル以外の配線(0.5mm²)でも構いません。
2. 多機能リモコン(型式:PC-RKF)以外のコントローラーは使用できません。

6.5 複数台接続

▲警告

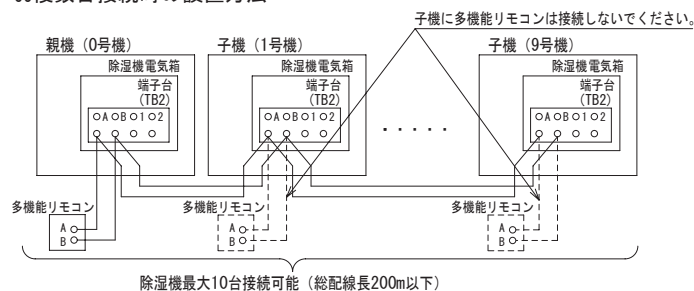
- 電気工事をするには資格が必要です。資格のあるお店に依頼してください。ご自分で電気工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。
- 電気工事は「電気設備に関する技術基準」内線規程(JEAC 8001)(最新のもの)およびこの据付点検要領書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をし、電源回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。
- 端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。
- 電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときは、電源を完全に遮断してから行ってください。感電の原因になります。また、遠隔操作や停電自動復帰運転により[運転]ボタンを押さなくても運転することがあるため、電源を遮断せずにカバーを開けていた場合は、ファンの回転などによりケガの原因になります。

《複数台設置時の注意事項》

- 1) 漏電遮断器(ELB)および手元開閉器は必ず各除湿機ごとに取り付けてください。
- 2) 複数台制御は、電源投入後に多機能リモコンから接続ユニットの確認を行います。(約20秒間)
おのおのの漏電遮断器(ELB)および手元開閉器をまとめて同じ場所に設置するか、施工上難しい場合は、その上位に一括して別の手元開閉器を取り付けてください。
- 3) ケーブルおよび除湿機間の渡り配線用ケーブルは0.75mm²の2芯ツイストペアケーブル(型式: KPEV・KPEV-S相当品)を使用してください。また、総配線長は200m以下としてください。総配線長30m以下の場合は、ツイストペアケーブル以外の配線(0.5mm²)でもかまいません。その他のケーブルを使用した場合、ノイズなどの影響による誤動作の原因になることがあります。
- 4) ケーブルおよび除湿機間の渡り配線用ケーブルは、電源配線と30cm以上離してください。
30cm以内に配線する場合は、ケーブルを鉄製の電線管に入れ電線間の片側をD種接地してください。
- 5) リモコンケースのケーブル貫通部分にすき間がある場合は、ビニールテープなどで補修してすき間のないようにしてください。水滴や虫がリモコンケースに入り、故障の原因となります。
- 6) 異なる相当馬力の接続は可能ですが、小型天吊タイプ(RK-NP08CV1・RK-NP12CV1)以外の機種との接続は行わないでください。
- 7) 型式:RK-NP08CV・RK-NP12CVと混在して複数台接続する場合は、メーカー指定のお客様ご相談窓口にご相談ください。

《複数台接続方法》

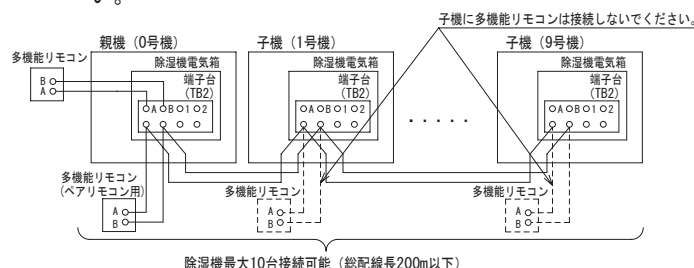
※複数台接続時の設置方法



- (注) 多機能リモコンは親機(0号機)のみに接続してください。子機に多機能リモコンは不要です。

※複数台制御とペアリモコンを併用する場合の接続方法

- 1) 各除湿機とペアリモコンの接続は下図のとおりに行ってください。



- (注) ペアリモコンは、親機(0号機)のみに接続してください。複数台制御機能とペアリモコンを併用する場合、ペアリモコンは上図に示すように配線接続してください。
なお、1つの端子に3本以上の配線を接続しないでください。断線および配線が抜ける恐れがあります。

《号機設定》

除湿機プリント基板(PWB1)上の操作基板(PWB2)からの機能選択により、各除湿機の号機番号(0～9)を設定してください。

□1) 機能選択モードの設定項目

項目	項目の内容	設定値(※)	
		設定範囲	初期値
n.o	除湿機号機設定	00～15	00

(※) 複数台制御時は、号機番号00～09の範囲で設定してください。号機番号10～15を使用した場合、誤動作により除湿機が故障する恐れがあります。

□2) 設定方法

- 電源投入後、操作基板(PWB2)のプッシュスイッチ(PSW3)とプッシュスイッチ(PSW5)を同時に3秒以上長押しすると項目「n.o」がセグメントに表示されます。
- 項目「n.o」が表示されている状態でPSW3を押すと現在の号機設定値「00」が表示されます。
- PSW2を押すと号機設定値が「00→01→02→03…」と増加していきますので、設定したい号機になるまでPSW2を押します。(PSW1を押すと設定値が減少します。)
- 設定したい号機が表示されている状態でプッシュスイッチ(PSW3)を押すと項目「n.o」の表示に戻ります。この状態でプッシュスイッチ(PSW3)とプッシュスイッチ(PSW5)を同時に3秒以上長押しすると設定モードを終了し、設定は完了となります。
- 一旦電源を遮断し、再度電源投入を行うと設定内容が反映されます。

(注) 電源遮断を行わないと設定内容が反映されませんのでご注意ください。

7. 試運転

工事責任者サイン

7.1 試運転の前に

試運転準備が完了するまで、除湿機の運転は絶対に行わないでください。

⚠警告

残留電圧で感電する恐れがあります。

※電気部品の点検を始める前に、必ずすべての電源を遮断してください。

※電源遮断後は必ず放電していることを確認してください。

《試運転上のご注意について》

- (1) 機械の外観および内部に輸送中または据付作業中に損傷を与えていないか点検してください。とくに、電気配線のねじ部は入念に点検する必要があります。
- (2) 電気部品端子と大地間をDC500V絶縁抵抗計で測って1MΩ以上あることを確認してください。1MΩ未満の場合は《絶縁抵抗について》に従い確認してください。弱电回路部に絶縁抵抗計をかけないでください。

《絶縁抵抗について》

電気部品端子と大地間をDC500V絶縁抵抗計で測って1MΩ未満の場合は以下に従い確認してください。

- ① 試運転時や長時間ブレーカーを切った状態で放置された場合、圧縮機内に冷媒が溜まり込み絶縁低下する場合があります。絶縁抵抗が1MΩ未満まで低下したり漏電遮断器が作動する場合は以下の内容を確認してください。

確認内容

※圧縮機の配線を外した状態で、圧縮機単体の絶縁抵抗を測定してください。圧縮機単体で1MΩ以上の場合は、その他の電気充電部の絶縁不良が考えられます。

※圧縮機の絶縁抵抗が1MΩ未満の場合は、まず圧縮機の配線をインバーター基板から外した状態で、ブレーカーを投入し通電した後、再度絶縁抵抗を測定し、絶縁抵抗が復帰すれば圧縮機に問題はありません。復帰しない場合は圧縮機の故障が考えられます。(空気条件・配管長や冷媒の状態により、さらに通電時間が必要な場合があります。)

- (注) 取り外した圧縮機配線を再接続する際は、差込端子のゆるみが出ないよう、ラジオペンチなどで端子をカシメ直して取り付けてください。
- ② 漏電遮断器が作動する場合は、漏電遮断器の選定容量も併せて確認してください。選定容量は、7ページの配線容量表を参照してください。なお、漏電遮断器(ELB)はインバーター対応型とし、定格感度電流が30mA以下のものは高感度高速形(動作時間0.1秒以内)を選定してください。

《多機能リモコンなどの名称》

多機能リモコンの働きや名称については多機能リモコンに付属の取扱説明書に従ってください。

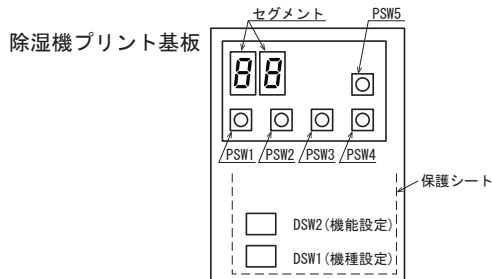
なお、多機能リモコンは指以外で操作しないでください。

7.2 ディップスイッチの設定について

除湿機プリント基板上的ディップスイッチの設定は必ず除湿機の電源がオフの状態で行ってください。

室内電源をオンのままで操作しても設定内容は無効となります。

- 1) 除湿機プリント基板上的ディップスイッチの取付位置を下图に示します。



- 2) ディップスイッチの出荷時の設定 (■がスイッチの位置を示します。)

PWB1							
機種設定(DSW1)				機能設定(DSW2)			
ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
1	2	3	4	1	3	4	

留意事項

※除湿機プリント基板には、絶縁用の保護シートが取り付けられています。この保護シートを引っ張ったり、取り外したりしないでください。

7.3 多機能リモコンの設定について(除湿機)

機能選択は、試運転メニューより設定できます。

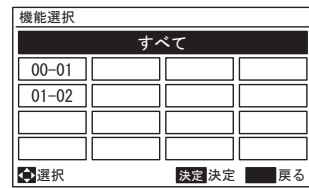
- 1 通常モード中(エアコン停止中)に『メニュー』ボタンと『戻る/ガイド』ボタンを同時に3秒以上押しします。



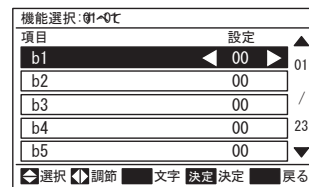
→試運転メニューを表示します

- 2 試運転メニューで『機能選択』を選択して『決定』ボタンを押します。

- 3 『△』『▽』『<』『>』ボタンを押して、設定対象の多機能リモコンを選択して『決定』ボタンを押します。多機能リモコンに接続している除湿機が1台の場合は表示しません。(4を表示します。)

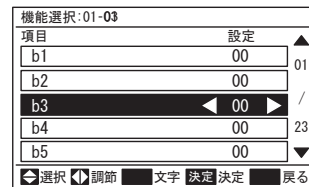


- 4 『△』『▽』ボタンを押して設定する項目を選択します。

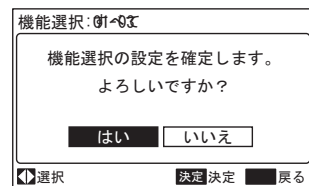


(注) 『パワフル』ボタンを押すと、項目・設定を日本語で表示します。機能詳細は「機能選択設定項目」を参照してください。

- 5 『<』『>』ボタンを押すと設定内容が変化します。



- 6 設定を確定する場合『決定』ボタンを押すと確認画面を表示します。



→『はい』を選択して『決定』ボタンを押すと設定を確定して、1の試運転メニューを表示します。

『いいえ』を選択した場合、4に戻ります。

- 7 試運転メニューで『戻る/ガイド』ボタンを押します。

→通常モードに戻ります。

●機能別選択設定項目

設定項目	名 称	設定内容	設定
F1	予備	—	
F2	停電後動作	復電後の動作を設定します。 00:無効 01:有効(復電後、停電前の状態で再運転)	
F3	遠方発停	遠方発停の種類を設定します。 (コネクター (CN7)1-2番) 00:レベル信号 01:パルス信号	
F4 (※1)	外部入力信号 選択	本機能の設定はありません。	
F5	ファン残留 運転	運転停止後の室内送風機運転動作を設定します。 00:無効(運転停止後、室内送風機も停止) 01:有効(運転停止後、室内送風機は30秒間運転を 継続し、停止)	
F6	異常時ファン 停止	「19」「38」以外のアラームが発生した場合の室内送風機 の動作を設定します。 00:運転(室内送風機は運転継続) 01:停止(室内送風機は運転停止)	
F7	予備	—	
F8	サーモオン 湿度	圧縮機の運転ディファレンシャル湿度を設定します。 05:5% 06:6% 07:7% 08:8% 09:9% 10:10%	
F9 (※1)	サーモオン 温度	本機能の設定はありません。	
FA (※4)	除霜周期	除霜周期を設定します。 15:15分 20:20分 25:25分 30:30分 35:35分 40:40分 45:45分 50:50分 55:55分 60:60分	
Fb (※4)	除霜時間	除霜時間を設定します。 05:5分 10:10分 15:15分 20:20分 25:25分 30:30分	
o1	検知湿度補正	除湿機の温湿度センサーで検知する湿度の補正を設定 します。 -5:-5% -4:-4% -3:-3% -1:-1% 00:無効(補正なし) 01:1% 02:2% 03:3% 04:4% 05:5%	
o2 (※1)	検知温度補正	本機能の設定はありません。	
o3	予備	—	
o4	インバーター 制御切替	運転中の圧縮機制御を選択します。 00:運転周波数自動 01:運転周波数固定(周波数はo5で設定します)	
o5	運転周波数固 定(※2)	「o4=01」設定または湿度設定「連続」の時の圧縮機運転 周波数を設定します。 35:35Hz 40:40Hz 45:45Hz 50:50Hz 55:55Hz 60:60Hz 65:65Hz 70:70Hz 75:75Hz 80:80Hz 85:85Hz 90:90Hz 95:95Hz 00:100Hz	
o6	フィルターサ イン時間変更	フィルターサイン時間を設定します。 00:表示なし 01:1200時間 02:2500時間	
o7	外部ヒューミ 信号入力	除湿機の吸込湿度センサーの代わりに圧縮機の運転停 止、運転モード切替を外部ヒューミ信号(レベル信号)に より制御します。 00:無効(吸込湿度センサーにより制御) 01:有効(外部ヒューミ信号(レベル信号)により 制御します。)	
o8 (※1)	外部サーモ信 号入力	本機能の設定はありません。	
o9	サーモオン信 号出力	圧縮機の運転中DC12Vを出力します。(コネクター (CN20)1-2番) 00:無効(出力しません) 01:有効(出力します)	
oA	外部出力信号 選択	コネクター (CN20)1-3番の出力信号を選択します。 00:パワフル除湿 01:除霜	
ob	セルフデマン ド機能	セルフデマンド機能を設定します。 00:無効 01:有効	
oC	ウェーブ機能	ウェーブ機能を設定します。 00:無効 01:有効	
od	予備	—	
oE	サーモオフ 湿度	圧縮機の停止ディファレンシャル湿度を設定します。 -5:-5% -3:-3% -2:-2% -1:-1% 00:ディファレンシャル無	
oF	サーモオフ 温度	本機能の設定はありません。	
oG	予備	本機能の設定はありません。	
oH (※1)	排熱抑制 範囲上	本機能の設定はありません。	
oJ (※1)	排熱抑制 範囲下	本機能の設定はありません。	
b5	運転モード 固定	運転モードを固定します。 00:無効 01:有効(操作ができません)	

設定項目	名 称	設定内容	設定
b6 (※1)	設定温度固定	本機能の設定はありません。	
b7	設定湿度固定 (※3)	設定湿度を固定します。 00:無効 01:有効(操作ができません)	
b9	風量固定	設定風量を固定します。 00:無効 01:有効(操作ができません)	
G0	予備	—	
G1	切タイマー 自動設定	切タイマーの時間を設定します。 00:無効 01:24:1 ~ 24時間設定(1時間毎) 0A:30分 0B:90分 0C:40分 0D:45分 0E:50分 0F:55分	
G2	リモコン 親子設定	リモコンの親子設定を行います。 00:親 01:子	
G3	リモコン 停止遅延	『運転/停止』を3秒以上押した場合にユニットの 運転/停止を行います。 00:無効 01:有効	
G4	操作ロック/運 転モード	操作ロック設定時に運転モードを固定します。 00:無効 01:有効(操作ロック時、操作ができません)	
G5	操作ロック/設 定温度	本機能の設定はありません。	
G6	操作ロック/風 量	操作ロック固定時に風量を固定します。 00:無効 01:有効(操作ロック時、操作ができません)	
G7	操作ロック/設 定湿度	操作ロック設定時に設定湿度を固定します。 00:無効 01:有効(操作ロック時、操作ができません)	
G8	予備	—	
J3	運転ランプ色	運転ランプ色を選択します。 00:緑 01:赤	
J5	連絡先表示	連絡先表示の有無を設定します。(ガイド機能) 00:有効(連絡先を表示します) 01:無効(連絡先を表示しません)	
JA	簡易点検表示	簡易点検表示の有無を設定します。(メニュー機能) 00:無効(簡易点検表示をしません) 01:有効(簡易点検表示をします)	
L7	予備	—	
P4	センサー 温湿度表示	除湿機の温湿度センサーで検知した温湿度を表示しま す。 00:無効(表示をしません) 01:有効(表示をします)	
P6	パワフル ボタン操作	パワフルボタン機能の有無を設定します。 00:有効 01:無効	
P7	メニュー画面 遷移禁止	メニューボタン機能の禁止を設定します。 00:無効(メニュー機能を使用できます) 01:有効(メニュー機能を使用できません)	
P8	機能日本語 表示	機能選択時における日本語表示機能の有無を設定します。 00:有効(パワフルボタンで日本語表示します) 01:無効(日本語表示しません)	
P9	アラーム 日本語表示	アラーム時における日本語表示機能の有無を設定しま す。 00:有効(日本語表示します) 01:無効(日本語表示しません)	

- (※ 1) 部の項目は機能がありませんので設定変更しないでください。
(※ 2) 圧縮機の使用周波数範囲は機種によって異なりますので、設定し
た周波数で運転しない場合があります。
なお、設定値が使用周波数範囲外の場合は、使用周波数の上限ま
たは下限で運転します。
(※ 3) 設定湿度固定を有効にした状態で運転モードを切り換えた場合、
設定湿度が変わることがあります。
(※ 4) 使用環境に合わせて設定を変更してください。

留意事項

- ※設定の変更は、電源投入から3分以上経過後に行ってください。
※接続構成を変更した場合は、各機能選択の設定内容を確認してください。
※表内の設定欄に、各機能選択の設定内容を記入してください。
※上記表中の「予備」の項目は設定変更しないでください。(00のままにしてください。)
誤って設定すると保護装置不動作など除湿機が故障する恐れがあります。

7. 試運転

7.4 試運転

据え付けが完了しましたら、試運転をしてお客様に引き渡してください。

□1) 試運転は下記手順で行います。異常なく運転することを確認してください。

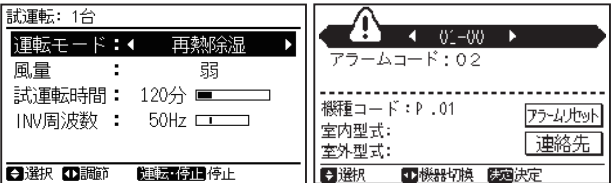
多機能リモコンの場合

- 1 多機能リモコンの『メニュー』ボタンと『戻る/ガイド』ボタンを同時に3秒以上押します。
→試運転メニューを表示します。
※ 『試運転』を選択して試運転画面を表示します。
※接続した除湿機の総台数が、液晶部に表示されます。

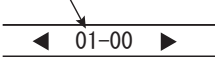


- ※正しい台数以外の表示が出る場合は接続不良、またはノイズなどにより接続確認が正常に行われていません。一度電源を切り、次の箇所を点検して、正しい結線にしてください。(ブレーカーのオン/オフは短時間(10秒以内)に繰り返さないでください。
 - (a) 除湿機の電源入れ忘れ、または電源配線不良
 - (b) 除湿機間ケーブル、またはリモコンケーブルの接続不良
 - (c) ディップスイッチ設定または号機設定(9ページ)誤り
- ※『運転/停止』ボタンを押すと試運転を開始します。
- ※『△』『▽』『<』『>』ボタンを押して、各項目を選択してください。
- 2 『運転/停止』ボタンを押します。
→運転ランプが点灯し、試運転を開始します。この時、自動的に2時間の切タイマーがセットされ「試運転時間:120分」と表示されます。
- 3 試運転は湿度調節器を無効とし、連続運転を行います保護装置は有効です。
- 4 再度『運転/停止』ボタンを押します。または試運転時間が経過します。
→試運転が終了します。
試運転時間の変更は、『△』または『▽』ボタンを押し、試運転時間設定にして『△』『▽』ボタンで時間を設定してください。(30～600分)

試運転中に保護装置作動などの異常が発生した場合、多機能リモコンの運転ランプが点滅し、下図のようにアラームコードが表示されると同時に、機種コードが表示されます。また、運転ランプが2秒/2秒の点滅をした場合は、除湿機・多機能リモコン間の伝送異常(コネクタ部ゆるみ・外れ・断線・誤結線など)です。このような時は12ページの「アラーム(異常)コードおよび原因表」で原因を確かめて処置してください。
なお、処置できない場合は、専門のサービスパーソンにご相談ください。



異常が発生した除湿機の号機

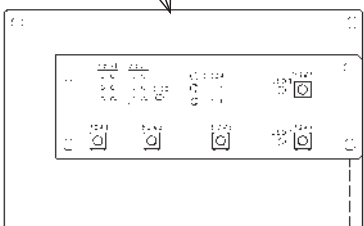


アラームコード: 22 ← アラーム原因コード
機種コード: P.01
↑
機種コード

除湿機プリント基板からの試運転

除湿機プリント基板からの運転要領を示します。

除湿機プリント基板



- 1 電源を投入します。
→除湿機プリント基板上のセグメント(SEG1・SEG2)に「—」を表示して接続確認を行った後、セグメントに設定湿度が表示されます。
- 2 除湿機プリント基板上のプッシュスイッチ(PSW4)を押します。
→LED7(緑色)が点灯し、運転を開始します。運転状態は、セグメントに表示され、設定風量はLED4～6に表示されます。
- 3 運転中にプッシュスイッチ(PSW4)を押します。
→LED7が消灯し運転を停止します。
 - ※セグメントの表示
通常時: 設定湿度(連続運転は0n)
除霜時: dF
異常時: アラームコード(点滅表示)
送風モード: 回転するように点灯
 - ※風量の表示
LED5とLED6が点灯: 強風
LED6が点灯: 弱風
 - ※その他の表示
LED8が点灯: パワフル除湿

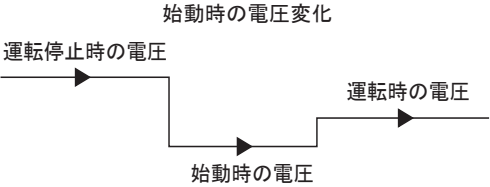
留意事項

- ※運転モード・風量・湿度の設定は多機能リモコンの設定に従いますので、設定変更が必要な場合は、多機能リモコンから設定を行ってください。
- ※除湿機プリント基板からのサービス運転機能は、除湿機点検などの一時的な確認の時のみ使用し、最終確認のための試運転は必ず多機能リモコンから行ってください。

アラームコード	異常内容	作動機器と作動設定値・原因
01	フロートスイッチ作動	高水位・フロートスイッチの故障
02	保護装置作動[高圧カット]	高圧遮断装置(冷媒R410A:4.15MPa)
03	リモコン制御基板間伝送異常	多機能リモコン・制御基板間配線の端子部ゆるみ・断線・誤配線
04	インバーター基板制御基板間伝送異常	インバーター基板・制御基板間伝送不良
06	インバーター電圧異常	インバーター電圧低下
07	吐出ガススーパーヒート低下異常	冷媒過多・膨張弁開ロック・異常着霜
08	圧縮機上部温度過昇異常	冷媒不足・冷媒抜け・膨張弁開ロック
11	吸込空気用サーミスター異常	
13	蒸発器出口サーミスター異常	サーミスター(センサー)配線誤結線・未結線・断線・ショート
15	吸込空気用湿度センサー異常	
19	送風機保護装置作動	ファンモーター過電流・インターナルサーモ故障・制圧過少・風量過多
20	圧縮機上部用サーミスター異常	
21	高圧圧力センサー異常	サーミスター(センサー)配線誤結線・未結線・断線・ショート
29	低圧圧力センサー異常	
35	機種設定誤り	誤設定
38	保護検出回路異常	保護装置異常

アラームコード	異常内容	作動機器と作動設定値・原因
39	運転電流異常	過負荷運転・圧縮機異常・電流センサー異常
45	高圧圧力上昇防止保護作動	過負荷運転・冷媒過多・冷媒配管つまり・不凝縮ガス混入
47	低圧圧力低下防止保護作動	冷媒不足・冷媒抜け・膨張弁閉ロック
48	インバーター過電流保護作動	過負荷運転・圧縮機異常
53	インバーターモジュール保護作動	インバーター異常 (過負荷・回転異常・起動失敗)
54	インバーターフィン温度上昇保護作動	フィンサーミスター異常・過負荷運転
55	インバーター不動作	インバーター故障
EE	圧縮機保護アラーム [多機能リモコンによるリセット不可]	6時間以内に圧縮機にダメージを与えるアラームが3回発生

- 2) 試運転時の点検
試運転時に下記のチェックをしてください。
- (1) 送風機の点検
室内送風機が正しい方向に回転し、風が出ていることを確認してください。
- (2) 電源電圧の点検
電源電圧を調査して線間電圧のアンバランスや電圧値の異常があるときは電力会社に相談し、適切な処置をしてください。一般に始動時には下図に示すように一度電圧は降下してから回復します。この始動時の電圧が本機の端子台において定格電圧-15%以下になったり、また、平常運転時に定格電圧±10%を超えていますと、機器故障の原因となりますのでご注意ください。



7.5 引き渡し

- 1) 引き渡し時の指導
試運転を完了して製品を引き渡す際、運転の要領や定期的な保守の仕方について、取扱説明書によりお客様に十分説明し、指導してください。
除霜運転を行うことがあります。これは室温が低いときに室内熱交換器に霜が付くため、定期的に霜取りをしているためであり、一時的に圧縮機が停止しますが故障ではありません。
- 2) 最後に保証書と取扱説明書を渡してください。
なお、取扱説明書の表紙にはお客様がご使用になる製品型式にチェックマーク☑を入れ保証書とともに保管していただくようお願いして渡してください。

留意事項

※試運転準備が完全に完了するまでは電気配線確認などのために除湿機は絶対に運転しないでください。

「取扱説明書」ならびに「漏えい点検・整備記録簿」をお客様に渡し、保管を依頼してください。

※本製品を所有するお客様には、製品性能の維持、また、冷媒フロン類を適切に管理するため、「フロン排出抑制法」に基づき、冷媒漏えいに係る簡易点検・定期点検を実施いただく必要があります。その案内を「取扱説明書」に記載しているため、必ずお客様にお渡しください。

※「フロン排出抑制法」に基づき
1) 気密試験の結果、2) 追加充填を含む全冷媒量、3) 漏えい検査の結果を、除湿機の取扱説明書に同梱された「漏えい点検・整備記録簿」に記載したうえで、お客様に必ずお渡しください。

以上で日立除湿機の据え付けは完了ですが、この据付点検要領書はお客様に引き渡して保存するよう説明してください。

製品のお問い合わせについて

機器の取付や機能について
(株)エコプラ 04-2937-5667

機器の修理・メンテナンスについて
(株)エコプラ フリーダイヤル
0120-970-843